令和３年度の大雪に伴う除排雪事業の検証と今後の対応策について（概要版）

１ 趣旨 【本編Ｐ１】

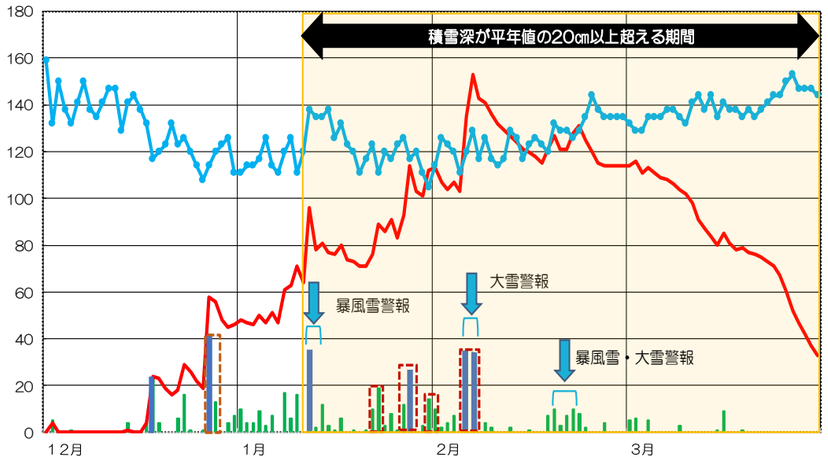
昨シーズンの記録的な大雪を踏まえ、雪対策を円滑かつ効果的に推進することを目的とした「いい冬いしかり検討委員会」において、市が昨シーズンに行った除排雪の対応について検証を行い、課題などを明らかにするとともに、今後の大雪の対応策を取りまとめることとした。

２ 気象概況と大雪時の基準について 【本編Ｐ１】

（１）昨シーズンの除排雪作業に影響を及ぼした気象概況について

- 花川・樽川・花畔・緑苑台地区で１日の降雪量が20ｃｍを超えた回数が６回、10ｃｍを超える日が２日以上続いた回数が５回あり、除雪作業が遅れるなど市民生活に大きな影響を及ぼした。
- 暴風雪、大雪警報が発表された際には、降雪量が前項まで多くならなくても、いたるところで吹き溜まりが発生し、除雪作業に遅れが生じた。
- 大雪と低温の影響により、１月中旬以降、全市において平年の積雪深を20cm以上超える状態がシーズン終了まで続き、最大で２倍の積雪深となったことから、排雪作業が大幅に遅れ、市民生活に大きな影響を及ぼした。

令和３年度　石狩市の降雪量・積雪深・平均気温の経過



累計降雪量	543cm
平年値	480cm
最大積雪深	153cm
平年値	74cm

降雪量
降雪量（1日に20㎝以上）
降雪量（2日以上連続10㎝以上）
積雪深
気 温

以上のことを踏まえ、下記の状況が発生した時に「大雪」と判断する。
①一度の降雪量が20ｃｍを超える
②一度の降雪量が10ｃｍを超える日が２日以上続く
③暴風雪、大雪警報発表
④平年の積雪深を２０ｃｍ以上超える期間

３ 検証体制 【本編Ｐ１】

４ 検証項目と具体的な実現方策（本編抜粋） 【本編Ｐ２～Ｐ７】

（１） 大雪時の作業体制の確立

【今シーズンより実施】

①大雪の判断や除雪の優先順位の検討 【本編Ｐ２】
- 大雪の判断基準を設定し、緊急時大雪除排雪体制へシフト（市民への情報提供）
- 大雪時の幹線道路や歩道の除雪路線の優先順位を設定
- 大雪時の幹線・準幹線道路は、間口処理を後回しにし、通勤・通学時間帯までに道路交通の確保を優先

②大雪時の圧雪管理の検討 【本編Ｐ３】
- 幹線道路は、雪堤が高くなる前に全排雪を実施、準幹線道路は、一時堆積場所の利用を見据えた排雪を実施、生活道路は、公園、準幹線道路に雪を一時堆積するなど、圧雪路面の早期解消

③大雪時の協力体制や連絡体制強化の検討 【本編Ｐ３】
- 大雪時、現場との連絡体制の強化及びＧＰＳシステムの導入により、現場状況の把握に努め、道路維持組合内部の連携による速やかな対応を実施
- 「建設水道部道路パトロール班」を組織しパトロールを強化

④大雪時の排雪作業の検討 【本編Ｐ４】
- 大雪時、国などへダンプトラック支援を要請
- 緊急雪堆積場として、公園・学校グラウンド・調整池などの使用に向けた準備
- 花川南地区のスムーズな排雪方法の実施と幹線道路の日中排雪作業の検討

（２） 持続可能な除排雪体制の確立 【本編Ｐ４～Ｐ６】

【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】

①ダンプトラックの確保や排雪作業体制の検討 【本編Ｐ４】
- ダンプトラック・交通誘導員の確保について、新たな視点で検討
- 排雪作業体制の見直しの検討

②雪堆積場の増設や空き地利用の検討 【本編Ｐ５】
- 市街地近郊に新たな雪堆積場の確保を検討
- 空き地を活用できる仕組みについて検討

③除排雪作業の安全対策強化の検討 【本編Ｐ５】
- オペレータ確保や負担軽減、除雪技術の継承、道路維持組合内部の連携など持続可能な除排雪体制の構築

【今シーズンより実施】

④市民への除排雪に関する情報発信の検討 【本編Ｐ６】
- 市ＨＰ、市公式LINEによる除排雪作業の情報発信
- 路上駐車・雪出し行為など対する啓発活動
- 除雪センターへの電話の繋がりにくさ解消、及び維持担当の電話に着信時音声ガイド付き自動録音装置の設置

⑤その他持続可能な除雪体制の検討 【本編Ｐ６】
- 郊外の荒天時危険路線については、通行止めにするなど速やかに危険を回避する措置を実施

（３）関係各所との連携 【本編Ｐ７】

【今シーズンより実施】

①連携が必要な関係各所の整理と対策 【本編Ｐ７】

５ 大雪時の対応 【本編Ｐ８】

【大雪の判断基準】

【Case1 短期的な大雪の対応】
①一度に20ｃｍ以上の降雪があり、なおも降り続く予報のとき
②２日以上連続して10ｃｍ以上の降雪があったとき
③暴風雪、大雪警報が発表されたとき

【Case２ 長期的な大雪の対応】
①過去５年平均の積雪深を概ね20ｃｍ以上超えた期間

大雪の判断は上記ケースを標準とし、大雪除排雪体制へシフトへの準備を進める。
大雪除排雪体制へシフトすることが決定した場合、市民に対してＨＰや市公式ＬＩＮＥなどで大雪時対応を行う旨の情報提供を行う。

大雪除排雪体制【Case1】

①大雪時の除雪の優先順位
- 幹線道路は、マニュアルに従い優先度の高いバス通りなどの重要路線の除雪を実施し、道路交通の確保を第一に、通勤・通学時間帯までの作業終了を目指す
- 歩道除雪は、設定した歩道の優先順位に従い除雪を実施

②その他大雪時の除雪体制
- 郊外の荒天時危険路線については、一時作業を中断して通行止めにするなど、速やかに危険を回避する措置を実施

③大雪時の応援体制や連絡体制強化
- 道路維持組合内の連携による除雪を実施
- 連絡体制の強化やＧＰＳシステムの活用により、除雪が遅れている路線を把握し、早急な対応を実施
- 「建設水道部道路パトロール班」を設置し、的確な作業指示を実施

④関係各所との連携
- 中央バス・企画課交通担当と連携し、バスの定時運行確保を目指す
- ごみ・リサイクル課と連携し、ごみの収集業務に影響のある路線の路面状況を共有し、早期の対応を図る
- 石狩消防署と連携し、緊急車両の通行に影響のある路線の路面状況を共有し、早期の対応を図る
- 教育委員会と連携し、通学路の除雪状況について共有し、児童・生徒の安全確保を図る

大雪除排雪体制【Case２】

※【Case1】の対策を講じつつ、主に圧雪管理と排雪作業への取り組みを強化

①大雪時の圧雪管理
- 幹線道路は、雪堤が高くなる前に全排雪を実施
- 準幹線道路は、学校のグラウンドなどを利用し、生活道路のザクザク路面を処理した雪の一時堆積場所としての利用を見据えた排雪を実施
- 生活道路は、公園や準幹線道路などへ一時堆積を行うなど、早期の圧雪路面解消を図る

②大雪時の排雪作業の対応
- 道路維持組合内の応援体制について連携を図り、排雪作業のスピードアップを図る
- 国などへダンプトラック支援を要請し、排雪作業のスピードアップを図る
- 緊急雪堆積場として雪入れ可能な公園・グラウンド・調整池など利用し、排雪作業のスピードアップを図る
- 交通量の多い日中でも幹線道路の排雪を実施